

第33回 議会改革推進特別委員会記録

令和6年4月8日（月）
開議 9時 59分
閉議 11時 38分
全員協議会室

【委員】 牛尾委員長、西田副委員長、
三浦委員、村武委員、小川委員、布施委員、佐々木委員、田畑委員
【議長・委員外議員】 笹田議長、肥後議員
【事務局】 下間局長、松井次長、小寺書記

- 1 議会改革に関する検討項目の確認
- 2 一般質問における議員の資料配信について
- 3 議会における事務事業評価について
- 4 （仮称）建築物検討委員会について
- 5 議会図書室の活用について
- 6 その他

○次回開催 令和6年5月14日（火） 10時～ 全員協議会室

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[9 時 59 分 開議]

○牛尾委員長

第33回議会改革推進特別委員会を開会する。担当書記が代わったので、一言あいさつをお願いします。

○小寺書記

令和6年度から議会改革推進特別委員会の担当書記をさせていただく。皆と一緒に浜田市議会の議会改革、機能強化を進められるお手伝いができるよう頑張るので、よろしくをお願いします。

○牛尾委員長

チーム議会なので、お手伝いではなく一緒にやろうということでよろしくをお願いします。

1 議会改革に関する検討項目の確認

○牛尾委員長

前回視察を終えて、今後検討していくものの順番を決めた。これら全てを検討すると決めたが、浜田市議会にこれを導入すると決めたわけではない。認識の差があってはいけないので一応確認しておこうと思う。

先進市に行ったが、それが良いと思うことと、浜田市議会に導入することとは別問題だということで、皆の認識の統一を図りたい。よろしいか。

(「はい」という声あり)

ではそういう認識を得たので次の議題に移る。

2 一般質問における議員の資料配信について

○牛尾委員長

那賀町の副議長から話を聞いて、一般質問の資料として導入するのは良いと皆も感じられたと思う。何か新しいものを導入するということは、現行のものを廃止したほうが良いのかどうかということも含めて意見をいただきたい。

例えば那賀町のように議員が資料を作成し、配信しながらやる方法を導入するのであれば、それもやりパネルもやるというわけにはいかないと思う。新しい方式を導入するのであれば、今までの方式はやめるということが良いのかどうかということも含めて、皆の意見を聞いておきたい。

○布施委員

今の浜田市議会が導入しているパネルも、一つの資料という考えである。あくまで一般質問を補完する資料として、枚数制限も必要だろうし、そればかりが目立ってもいけないという思いはある。那賀町のやっている方式もパネルも同じような考えで良いのではないかと思う。

現行のパネルは、製作を依頼し製作費を政務活動費に上げている。もし那賀町方式を導入するとして、自分で製作した場合でも政務活動費として請求できるようにしてほしい。導入については賛成である。

○佐々木委員

那賀町の視察でこの件を質問もした。浜田市議会がやっているパネルとは別物のような感覚を受けた。パワーポイントのようなものを使って案外多くの議員がやっており、また執行部もパネルを使って回答している。市民側から見ると非常に分かりやすいやり取りがなされていると感じた。一議会において使用する資料の枚数も100枚を超えるとのこと、現行の浜田市議会のパネルとは少し違う性格のものである。分かりやすさとしては非常に効果的だし、市民側からすればより議会に興味をわく、意識が持てるやり取りだと感じた。ただ、実際にそれを実行するとすると、各議員の技術も必要だろうし、議場設備も必要なので費用が必要だと思う。市民側からすると分かりやすく、議員の技術的なことも含めて可能なら試行的な導入も検討していかれたらと思うが、少しハードルが高い内容ではないかと感じた。

○三浦委員

私は全面的に賛成である。パネルはもうなくして良いと思うし、全てパワーポイントなり、資料を作るにしても写真にしても貼り付けてタブレットを使って配信する。技術的なハードルもないし予算も不要。全てそれに移行で良いのではないかと思う。

○田畑委員

どちらでも選択して良いという考えでやったほうが良いと思う。パワーポイントを使って一般質問を説明できるようにすることもあるだろうし、タブレットで配信するやり方もあるだろう。各議員がどう考えるかで、選択方式を取るのが良いと思う。

○村武委員

これを取り入れるのは賛成である。パワーポイントを作れない方もおられるかもしれないが、パネル用に作成するデータを出されると良い。パワーポイントの操作するのが議員本人だと思うが、その操作が難しい方もおられるかもしれないので、そういう方はパネルを出すほうが簡単かと思う。当面はパワーポイントとパネルを両方取り入れて良いのではないかと思う。執行部にとっても市民にとっても大変分かりやすいので、進めるべきだと思っている。

○小川委員

分かりやすさという意味では非常に良い取組だと思っている。今まで一般質問をされるときでも、例えば質問席でパンフレットや手元資料を見ながら、時にはそれを示す際に、こういう形でやるとより分かりやすくなると思う。今までのパネルもだが、締切りに間に合わないパネルの使用が難しかった。各議員がお金を払ってパネルを作られるがかなり高価だと聞いている。そこまでしてパネルを作るべきか悩んだこともある。那賀町方式ならコストもそれほど高くないだろう。那賀町の議員は確か全議員が何らかの資料提示をしていると聞き、それほど難しいことではないという印象を持った。細かいルール設定はあると思うが、ぜひ進めていくべきだと思う。

○西田副委員長

視覚的な分かりやすさは市民にとっても分かりやすいので賛成である。ただ、議員個々のスキルに差がある。また、そっくりそのまままねるのではなく、浜田市議会にとって取り組みやすい形に持っていくことも大事かと思っている。

○牛尾委員長

一通り意見を受けた。局長から何かあれば。

○下間局長

皆のイメージがばらばらのような印象を受けた。今はパネルを自分で作り、イーゼルに立てて一般質問の際に用いている。ケーブルテレビにはイーゼルの部分を画面いっぱいに出す形で放映されている。資料が全面に市民には見えているので、現行のパネルでも那賀町と同じことをやっているイメージである。

現行のように業者に依頼して高額なパネルを作らなくても、そもそもパネルに使用する資料は各自で作られているので、それをPDF化してタブレットに入れておき、自分で説明する際に発信ボタンを押すことで各議員も見ることができるし、ケーブルテレビにも同じように画面を映すというだけなので、今のパネルをわざわざ作らなくて済むというだけの違いだと思っている。パワーポイントで作らないといけないといったこともなく、写真なら写真をPDF化して入れておけば良い。ワード文書でも良い。パワーポイントに限らない。両方やるという意見も出たが、両方やらなくても基礎の資料を作っているなら、PDF化するだけで良いかと思う。わざわざ政務活動費で多額の費用を使わなくても良いのではないかと思う。

○牛尾委員長

先に局長の説明を受けてから皆の意見を聞いたほうが良かったかもしれない。今の説明を聞いて、何か意見はあるか。

○佐々木委員

PDF化してタブレットに入れて、質問しながら操作すると、こういう感じに出るといふことか。

○下間局長

はい。

○佐々木委員

資料を作る必要はあるかもしれないが、誰でもできるということか。

○下間局長

発信ボタンを押せばそれがケーブルテレビに送られるというわけではないが、ケーブルテレビに同じ資料を全画面に出すことは今でもできているので、全く問題ない。今までと少し違うのは、執行部や傍聴者には紙の資料を配っていた。例えば余っているタブレットがあるので、執行部席に置いてペーパーレス化するというのが一つのメリットだと思う。傍聴者をどうするかは事務局でも相談しないといけないが、モニターを傍聴席に置いて発信すれば同じタイミングで資料が飛ばせる。ペーパーレス化につながるので、すごく良いと思っている。

○佐々木委員

もともとのイメージが、パワーポイントで何項目かパネルに示したものを何かで指して進めていくとより分かりやすい。今までパネルで示されても何項目かある場合には、それを指せるような仕掛けがあればより分かりやすいと思っていた。そこまでは先の話かもしれないが。その辺は今の方式だと難しいか。

○下間局長

今言われたようなことは想定していない。プレゼンするわけではなく、自分の説明の補足資料として、例えば「ハザードマップに書いてあるとおり」と言いながらハザードマップの写真を発信するといったイメージなので、何かを指しながら説明するわけではない。

○布施委員

より詳しくするために佐々木委員が言われたような、パワーポイントも必要な部分が出るかもしれないが、今浜田市議会が導入しているタブレットを生かすという意味で、一般質問は今度から30分という時間も配慮した上で、災害現場や建設時の道路状況などをタブレットで示すことはできると思っている。PDF化するだけである程度できると思うが、執行部は紙を配らなくても席の前にモニターが2台あり、そこに映せるので簡素化されるのではないかと思う。傍聴者にはモニターが1台あれば、情報共有できるのではないかと思っている。もし導入するなら皆一斉ではなく、小松島市議会も議員間で個人差があると言われていたので、導入は可としても使わない人も出るだろうし、より良く利用される方も出ると思うので、試行的なものを踏まえた上でやったほうが良い。

○村武委員

先ほど両方進めて良いのではないかと言ったが、パネルはなくてもタブレット配信だけでできるという了解が全議員から得られれば、それだけでも大丈夫だと思う。パネルのときは3日前までに出すが、その締切りは、著作権や知的財産権の侵害にならないかどうかを確認するために設けられているのだろうか。

○下間局長

今発信した資料は、浜田市議会説明用パネル取扱要領である。一般質問初日の3日前までに議長にパネルを提示して使用する旨を申し出て、議長の承認を受けるものとする要領で決めたため、事前に出してもらっている。2項に書いてある基準が守られているかをチェックして許可を出している。

パネルをやめて今後こういった資料配信の仕方にしていくとなった場合にも、何らかの要領は作っておいたほうが良い。名称を変えて、何らかの資料配信をするときの要領を作り、皆でしっかり確認して進めていく必要があるかと思っている。

○牛尾委員長

どちらにしても議員全体に関わることなので、一旦持ち帰って少し議論してもらって、各会派の意向も含めて決めたいと思うがどうか。

○小川委員

特に今パネルを使っておられる方が、それと併用したほうが良いのかどうか、意見を聞いたほうが良いと思った。

○西田副委員長

パネルを作るときも基本的には写真など資料を業者に出してパネルにする。私も以前作ったが、業者に依頼すると1枚数千円する。1回の質問で多く作られる方は年間で相当な金額になると思う。コスト削減になって政務活動費にもすごく影響が出ると思う。パネルはなくしてPDF化に全て移行するとある程度決めて、持ち帰っても良いかと思っている。

○佐々木委員

パネルよりPDF化してタブレットで見せるようにしたほうが、お金も要らないしそれほど難しい作業でもない。見る側からしても同じように見える。効果は一緒、それに至る作成も簡単、費用も不要ということであれば、タブレットを活用する方向で持ち帰ったほうが、視察で勉強した委員会としての意見も含めて持ち帰るほうが良い。持ち帰ったらそういう話になるのだろうが、そう感じた。

○田畑委員

両方あって選択は本人がすれば良いのではないかと思っている。もしPDF化するなら、会派の意見の取りまとめも含めてある程度時間を置かないと、今までパネルでやってきた人が急にPDF化にできるかどうか懸念もある。今の時点からなら、9月定例会議くらいからではないか。ある程度期間を設けたほうが良いと思う。

○牛尾委員長

試行しながらということだろう。こういう意見があったということのを会派に持ち帰ってもらい、もしまとまらなくても、例えばしばらくは併用でも良いのではないかと、しばらく試行したほうが良いのではないかと意見も含めて会派内で議論してもらい、次回にその意見を報告していただければと思う。そのような方向でよろしいか。

(「はい」という声あり)

よろしく願います。

3 議会における事務事業評価について

○牛尾委員長

皆の意見を伺いたい。小松島市議会も那賀町議会も事務事業評価をそれぞれやっておられた。現在我々がやっているような附帯決議を付ける方法と、両市町のような事務事業評価の比較だが、今やっているのをやめて例えばこういうのを導入したほうが良いという考えをお持ちか。両市町を訪問して勉強して、それに対してどのようなイメージを持っておられるか聞いてみたい。

○田畑委員

9月に決算審査をやっているが、もう終わっている事業なのでなかなか意見を言えない、附帯意見を付けるくらいのことだろうと思っている。各委員会で重点事業をまとめて、深掘りして調査していく仕組みを設けたほうが良いと感じている。

○村武委員

小松島市議会の資料で、令和5年度の予算反映等改善書を見ると、決算時に事務事業評価をして次の年の予算に反映されていることが見えているのが良いと思う。事務事業評価のやり方は検討しないといけないが、やる価値はあると思っている。

○小川委員

今の浜田市議会の決算審査状況と比較して、すごく秀でていたという印象は持たなかった。浜田市議会の決算審査は、各委員がポイントを絞って質問されているし、最終的には附帯決議という形で意見をまとめていることを考えると、視察先の議会がやっていた事務事業評価の必要性は感じなかった。

○布施委員

浜田市の決算審査と予算審査は、それぞれ資料があって充実していると思っている。皆その資料に基づいてしっかり質疑されている。小松島市議会や那賀町議会に議会選出の監査委員がおられるか分からないが、浜田市は議員選出の監査委員を出しており、その方の意見が決算書にも前年予算に対しても反映されていて、浜田市のやり方は非常に良いと思っている。もしやるとすれば事業の中で、会派になるか委員会別になるかは分からないが、事業を絞って次年度の予算組みをする際に議会側から事務評価を出すような手法があっても良いと感じている。

○佐々木委員

もともと事務事業評価という制度には非常に興味があった。やるなら所管委員会でやるべきだろうと思っている。今回視察した両市町の事務事業評価は、もともとのイメージと違ったように感じた。検討する事業数も多く、短期間にこれだけ多くの事業を議会側で精査するのは非常にハードルが高いと感じた。今後取り入れるなら、委員会の所管で一つか二つ取り組もうという事業があればやっても良いと感じたが、全事業を全員で評価するのは困難だと感じた。

○三浦委員

事務事業評価で最も着目すべきは、全議員が同じ項目で事業を評価することだと思う。各議員がそれぞれの視点でその事業を評価すると、例えば内容や予算額を見た人もいれば、執行率について見た人もいる。これがばらばらなのが議員間討議に結び付かない要因の一つだと思っている。同じ視点でその事業を見たときに違う考え方が議員間で生じて、なぜこのような評価をしたのか、どうあれば良いのかという同じ土俵に乗りやすくなるのが事務事業評価の一番のメリットだと思う。必ずしも同様の仕組みにしなくても良いとは思いますが、重視する項目について各議員が一緒に見るという思いで決算審査に臨むといったことで対応できれば、今の浜田市議会の決算審査のやり方の中で十分に機能が果たせるかもしれないが、口頭ベースの申合せなどでは達成されないのであれば、シート式にして項目ごとに議員が評価していく。評価に差があればそれはなぜか、各議員がどういう思いで点数を付けたかというところから議論が始まっていく。議論のスタートを合わせるという意味で、こういった仕組みは必要なことだと思う。ただ、なぜこのシートが評価されるべきなのかという点で考えたとき

には、必ずしもこのシートを作ることがゴールではないようにも思うが、そういった議論は必要に思う。

○西田副委員長

全議員でたくさんの方の事業を評価して深掘りしていくのは良いことだと思っている。ただ、浜田市議会の決算審査は執行部からしっかりした主要施策等実績報告書が出されており、執行部自らが事業評価されたものがある程度書かれ、事務事業評価に結び付くものもある程度ある。どこまで細かく質疑をするかもあると思うし、加減が難しいとも思う。今は執行部からの実績報告書がベースになっているので、議会側でそれ以上深掘りしていくとなると時間、エネルギーなどの課題があると思っている。

○牛尾委員長

皆の意見を一通り伺った。さらに議論を重ねていこう。

○布施委員

三浦委員の言われたように、同じ事業を全員で評価する視点は大事だと思っているが、執行部側にも点数的な事業評価を再度求めるのか。その点数と議会側が出した点数の乖離について議員間討議などもできると思うが、どのように考えているか。

○三浦委員

良いと思う。決算の事業報告書の中で執行部がどういう視点で評価しているかをしっかり聞いて、それと同じフォーマットで我々議会側が客観的に見た事業評価と照らし合わせる。あの評価は主観的で、自分たちがどう思うかで評価が付く。それを議会側の角度から同じ事業を見ていくという意味で項目を合わせるのは良いと思う。

主要施策の事業はどういう基準でピックアップしているのか。執行部が選んでいると思うが、そうすると必ずしも議会側が気にする事業が載っているとは限らないので、委員会ごとにしっかり見たい事業があれば見ていく。執行部がどういう視点でその事業を評価しているかを参考にしながら、議会も評価すれば良いと思う。

○布施委員

小松島市議会も全員で出したものの取りまとめを専門委員会のように何人か抽出して、その方たちが事務事業評価をしようとする。次年度予算に生かされることが一番大きい気がする。自分たちの税金がどのように使われているかは、事務事業評価の点数で表れる。そこまでできれば最高だと思う。執行部側に同じように出してもらえれば良いと思う。すぐには難しいと思うし、皆の意思統一が必要だと思っているが、やるならそこまでやるのがベストではないかと思う。

○牛尾委員長

皆の今日時点での意見を伺った。やるならどういう方向でやるか、常任委員会で絞るべきではないか、もう少し時間を費やして意見集約していく必要がある。こういう議論をしていることを会派に持ち帰ってもらい、会派でも話してもらいながら次回にまた同じテーマで話したい。やるならどうあるべきかという視点で会派にて検討してもらって議論を重ねたい。よろしいか。

(「はい」という声あり)

では、どうやるべきかも含めて会派で議論してもらいたい。よろしく願います。

4 (仮称) 建築物検討委員会について

○牛尾委員長

これは那賀町で、箱物建設にどういうハードルを設けてチェックするかというもの。皆が現状どのように受け止めているか伺いたい。

○布施委員

浜田市においても全体的な予算が出るときには莫大な金額になる。議会に示された段階では修正がなかなかできない印象がある。建築物検討委員会ができる、より審査しやすくなるような印象がある。

○佐々木委員

非常に斬新な制度である。町なので大きな施設が次々建つことはないだろうが、5千万円以上の建物について、計画段階と執行段階という長い期間に全議員で評価するというのはとても良い制度だと感じた。こういう施設は執行部側から提案があって、議会側が検討する間もない状況でどんどん進んでいくような感覚がある。議会側がしっかり議論し評価する制度は大事ではないかと思う。より慎重な議会側の内容の検討が求められる時代には必要な制度だと思った。

○三浦委員

画期的で学びの多い取組だったと思う。執行部も計画の進捗を議会側に報告するタイミングは非常に難しい部分もあるのかと思うが、出てきたときにもう後戻りできないというタイミングで議会側に示されても、そこから議論の深掘りはなかなかできないという現実はあると思う。そういった部分をしっかりと捉え、どのように議会側の意見をしっかりと伝えていくか、やり方も含めて仕組み化すれば良い。こういった仕組みで行うのだが、ここは議会建築物検討委員会が立ち上がっているが、各所管委員会が仕組みの中で見ていくこともできると思う。

○田畑委員

こういった事業は予算を認めて設計事務所に委託を出している以上、変更するにしてもまた費用が必要なので、なかなか難しいと思っている。そうしたことを考えると、それぞれ所管する委員会で調査研究していかざるを得ないのではないかと思う。例えば美又温泉で総事業費10億円くらいの事業をこれからやっていくが、すでに設計事務所に発注しているので、変更させるのは地域住民の意見集約等も含めると大変難しいのではないかということで、委員会で対応すべきだろうと思う。

○村武委員

浜田市においても建築物を造るに当たって、後戻りできない状態が出てくるとも多い。そういった場合は議会側の意見もなかなか聞けない。金額は検討しないといけないが、頭出ししてもらおうような仕組みは良いのではないかと思う。やり方は今後検討していく必要がある。

○小川委員

大きな予算を伴う整備をする場合には、きちんと検証できるような形として何らかの仕組みが必要だと感じている。金額が高ければ高いほど、後に行政訴訟といった話が全国でも出ている。そのときに議会としてどうだったのかは後になっても検証できる仕組みが必要だと思った。

シートなどは非常に良いが、これを何らかの形で活用できないかと思ったのは、浜田市議会でもときどき主要事業に関する自由討議があるが、その際にポイントを絞って議員が自分の考え方を持って、それを議会全体としての考えに近付けていける仕組みも必要ではないかと思った。計画の立案段階と執行段階とを自動的に設置するとあるが、すでに事業が進んでいる段階で、議会側が意見を出してもどのように反映できるか難しい部分がある。この評価をするにしてもかなり専門的知識が必要な場合がある。そういうことも踏まえて各議員が、この事業のこの点に注目しているといった意思を執行部側に伝えるためにも、このようなシートを何らかの形で活用できたら良いと思う。議員間の自由討議を深めるツールにもなるのではないかと思った。

○西田副委員長

これまでも執行部から建築物を出される場合、ここにある確認項目のような具体的なことを網羅しての説明はあまりなかった気がする。そういう意味では確認項目が見えるようにして出し、それに基づいて皆で協議する形は非常に良いと思っている。ただ、これは建築物検討委員会だが、どういったところで審議するかは検討していく必要がある。

○牛尾委員長

皆のイメージは大体分かった。すでに動き始めたものを止めるのはなかなか難しい。那賀町が書いておられるように、計画立案段階に至るまでに、こういう構想があるといったことを執行部から示してもらい、その時点でこの種のを立ち上げる。そうすると、そこで是非が分かればストップすることもできる。こういうものが必要だとは大方の皆が言われたが、もし設けるとなれば計画・立案段階で、議会の見解を執行部に伝えるということをやろうと思えば、執行部と相談しなければいけないか。

○下間局長

先ほど小川委員が言われた中で共感したのが、自由討議をする一つの材料、視点を確認するということが。各議員がこういう視点で評価しているということが見えて、自由討議が活発にできるというのは、メリットがあると思った。委員会を設置するかしないかは別にして、こういう項目での視点で議論していくのは必要かと思った。

執行部とのすり合わせについては、こういった視点で今後議会側は見ていくということ伝えることは必要かと思うが、もしこれをやっていくのであれば、項目から選定していく必要はあると思う。浜田市議会はどういった点を見ていくのか、細かく精査していく。これは議会側が評価するものなので、執行部に出してもらうものではないと思う。一定の方向で議会がこういった視点で今後審査していく、調査していくというのを作った上で執行部にも伝える形で良いかと思う。

○田畑委員

美又温泉の話だと、3月の当初予算で6千万円弱の設計予算を認めている。設計事務所が決まったということは、その1年以上前に大方の構造、面積が決まっているのだと思う。でないと債務負担行為である程度予算を付けて、総事業費10億円弱のものがどんどん進んでいくというときに、議会がその物件に対してどう対応していくか。議員が皆、一級建築士レベルで議論するなら良いが、全く分からない状況の中でどうやって対応していくか。そうすると予算が付く2年か3年前には、地域住民と一緒にやって議論しておかないと、議会が介入するのはなかなか難しいと思う。

○牛尾委員長

そうなる前に議会として関与できるか。そこがどこなのかということは難しいと思う。皆この件についてはある程度の意欲を持っておられるので、これももっと積み上げをする中で、執行部に対して計画立案段階がどこかということもあるが、成案化する以前に、例えば1億円を超えるような箱物を考える場合には事前に議会側に示してもらい、議会はそれについて議論する時間をもらわないと困る、といったような執行権と議決権のやり取りとか申合せを考える。基準額を超える建物については成案化する前に議会に振ってもらい、その案件について議会が議論して一定の見解を示したいといったような仕組みなら、ある種の歯止めとなる可能性があるとも思った。

田畑委員が言うように、専門的見地がないのに何をするのだと言われればそうだが。ただ、専門的見地でなくても本当に建物が必要なのかといった一般論くらいは言える。そういう形で絡むことはできるかと思う。今回のような資料館と神楽伝承館の合築という突然出てきたような意見にしても、そうなる前に議会が絡んで議員が自由討議を重ねていけば、あのようなことにはならなかったと思う。もう少し皆の意見をまとめながら、執行部に申入れしながらやっていくのは大事かと思う。

○西田副委員長

美又の場合はもう1年半以上前から計画はあって、それも浜田市が直接ではなく第三者の大手が関わっており、国の補助事業も関わっている。そういう大きな事業なので、議会のレベルで介入していくのは難しいかもしれないが、通年会期制を取っている議会なので、こういう計画があるという時点で、執行部に対する確認は行われても良い気がする。郷土資料館や神楽伝承館は市のお金を丸ごと使って市の事業として建築物を設けるという話で、この場合には計画立案段階ではっきりと議会に示せるだろう。事業の中身によっては多少の違いがあるだろうが、最低でも市として行われる建築物事業については、計画立案段階で議会に示されるのは大変良いと思う。

○田畑委員

3年近く前にこういった事業計画はあった。それを公表することによって、情報公開を早くすることによって弊害も出るので、できるだけ外に出したくないというのは分かるのだが、基礎知識がないだけに急に言われても困る。できれば問題が起きない程度に早いほうが良い。例えば美川小学校の改築はもう決まっているのだから、どんどん情報提供して議会がそこへどう向き合うかという話をしても良いと思う。

○佐々木委員

基本的には施設の建設あるいは美又のように施設を含めた事業については、チェック機能を果たすべき議会がしっかり関与していかないといけない。どの段階で構想の話を出すか、執行部としては難しいことだと思うが、監視機能を果たす議会の役割を執行部にも理解してもらい、それならこのくらいのタイミングで出そうといった意識付けが執行部側にできれば、より議会が絡んでいける。執行部にも協力を得ながら、何かの仕組みを考えていきたい。

○牛尾委員長

皆の意見も盛り上がってきたが、ここで暫時休憩する。

[11 時 6 分 休憩]

[11 時 14 分 再開]

○牛尾委員長

委員会を再開する。議題4の建築物検討委員会については、皆から貴重な意見がたくさん出た。さらに次回以降に議論を積み上げて一つの形ができれば、執行部にこのようにやってもらいたいという申入れまでまとめていければと思うので、自分の考えを膨らませて次回またここへ持ってきていただくよう、よろしく願います。

5 議会図書室の活用について

○牛尾委員長

これをということでもまだ決まってないので、今日はこの件について決めることがあれば決めていきたい。最近増えているオンライン研修、各会派の部屋でやるのも良いが、会派室は何人かの共有なので、オンライン研修をするなら図書室を使ってという意見だった。一つの考え方としてオンライン研修は図書室を有効利用するということで、皆に同意をいただきたいと思っているのだが、意見があれば聞きたい。

オンライン研修は自宅でもどこでやっても良いのだが、できれば図書室を使ってやるということも浜田市議会の方針として持っておいたほうが良いのではないかと考えている。

○三浦委員

オンライン研修が当たり前になってきた。政務活動費を用いてそういう研修に参加するケースもあるし、受講する際に議会図書室が対応できる、そのように使用していこうということであればそのように活用していくのは良いと思う。

○佐々木委員

受講する研修によっては、複数で聞いてはいけないものがないか。

○牛尾委員長

僕が答える筋合いではないのだが、大体は1名いくらかと料金が決まっているので、複数名で研修を聞くのはルール違反である。

○小寺書記

研修によっては、複数での受講を認めているものもあるので、内容によって要確認ということはあると思う。

○牛尾委員長

この部屋を使用して複数名でオンライン研修をしたことがある。議会図書室を使うとしたら3、4人だと思う。ご異議がなければ、議会図書室を使用してオンライン研修をすることが一つの選択肢になると了解いただければと思うが、よろしいか。

(「はい」という声あり)

では、一つの使い方として考えるということで。その他の使い方は過去数年にわたって、例えば市民相談室をやろうといった意見など出ていたが決まっていはいない。

例えば市立図書館と連動する、大学図書館と連動するということもあるが、実際の運用となるとなかなか難しく、何一つ実現していない。ある議会では議会図書室を乳児室として使うという事例があったが、看板を代えて乳児室として使うのはどうかという考え方もある。皆から意見があれば、次回以降にまた上げてもらいたい。

6 その他

○牛尾委員長

その他について、何か皆からあるか。

(「なし」という声あり)

では私から少し提案する。今回直近の議会改革度調査において、昨年1,784議会中37位だったが、今回13位まで順位が上がった。一般市だとベスト10に入った。中国地区では当然1番だが、中四国、九州を入れても昨年に続いて連続トップの位置を勝ち取った。江藤先生からお祝いのメールが来た。さらに励まれることを期待するとのメッセージだった。

2021年の優秀躍進賞ははまだ市民一日議会（以下、市民一日議会）が評価された。2022年は広域議会が躍進賞をいただき、昨年は浜田市議会としてエリア賞をいただいている。ここ3年を見ても特に議会広報広聴委員会と特別委員会の頑張りによって相対的にランクが上がってきた。今年は4月から議員報酬の復元が始まる。政務活動費も10万円から24万円になる。非常に浜田市議会が大きく変わってきた時期だと思う。この3年の歩みについて記者会見を開いて発表すべきではないかと思っている。前例があって、平成19年だったかマニフェスト大賞で、当時はまだ参加が少なかったが一般市では全国ナンバーワンになった。その折に、当時の議長と正副委員長とで記者発表させてもらった。

今回も中四国・九州で2年連続トップになることと全体で13位、ベスト10に入るとするのは、やろうと思ってもなかなかできることではない。チーム議会として議会事務局の応援も含めて、このような結果になった。議会の見える化ということで、ランキングは一つの物差しなのでそれが全てではないが、記者発表すべきではないかと思っている。議長には少ししか相談できなかったが、昨日副委員長にも相談した。やるとすれば、例えば当特別委員会プラス議長でやる。当特別委員会でやる理由は、今の

議会広報広聴委員会の現委員長、前委員長がおられる。とりあえず当特別委員会メンバーと議長とで記者発表させていただければ良いのではないかと私案だが思っている。ぜひ、浜田市議会の見える化、市民にアピールしたいと思っているので今日そのような提案をさせていただいた。最初に議長の考えを伺いたい。

○笹田議長

記者発表と牛尾委員長が言われたが、これはもちろんこの特別委員会の皆の努力もあるが議会全体で取り組んだ結果だと思っている。情報共有・住民参画・機能強化という三つの項目の中で、情報共有と住民参画は議会広報広聴委員会の取組なども評価されたものだと思う。どなたが記者会見するかはしっかり議論したほうが良い。

○田畑委員

今回全国で13位になり、市民に議会のあるべき姿、情報共有や住民参画、機能強化等について話そうということだが、正副議長と正副委員長でやっていただければ良いと思うがいかがか。

○牛尾委員長

ほかに意見は。議会全体に係ることなので、そこそこのメンバーを網羅して記者発表したいと思っている。その前に、そういうことをやる必要があるかどうかという意見もあろうかと思うが、議会が何をしているのかと言われる方もよくおられるので、この際一つの物差しで結果が出た折には、やる必要があるのではないかと思っている。

○笹田議長

先ほど言ったように議会全般に関わることであるし、議会運営にも関わることだと思うので、議会運営委員会にも相談して決定されるのがよろしいかと思うがどうか。

○牛尾委員長

浜田市議会として記者会見するのだから、議長が言われるように議会運営委員会に諮るのも必要ではないかと思う。とりあえず特別委員会の委員はどうだろうか。ここで一応まとめさせていただき、議長の指導もあって議会運営委員会でその話をさせていただいてやる、という流れに持っていきたいと思うが、よろしいか。

○小寺書記

日にちや誰が出るかという話もあったと思うが、何月何日にこういうメンバーで、こういうことについて記者会見をやるので取材に来てくれという形で投げ込みするというイメージでよろしいか。

○牛尾委員長

投げ込みをしてなるべく取材に来ていただけるようお願いするほうが良いかと思っている。議会活動の結果が出た折には、そういうことは積極的にする必要はあるかと思っている。全くそういうことをする必要はないと言われる方が一人でもおられたら、それはやるべきではないと思っているが、よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

では、そういう段取りでさせてもらう。小寺書記よろしく願います。

今日予定していた項目は全て終了したが、何かあるか。

(「なし」という声あり)

では次回の日程について。会派で議論してもらわないといけない案件が結構あるので、いつ頃が良いだろうか。

(以下、日程について協議)

では次回は5月14日10時からということで、よろしくをお願いします。

○小寺書記

5月14日火曜日の10時からとのことだが、主な議題としては、今日の議題2、一般質問における議員の資料配信について、議題3、議会における事務事業評価について、議題4、(仮称)建築物検討委員会についてで、2と3については会派に持ち帰ってという話を先ほどしていたと思うが、4については会派に持ち帰りではなかったが、こちらも会派に持ち帰ってもらい、次回に会派の意向を披露していただけたらと思う。その3議題でよろしいか。

○牛尾委員長

4については、もう少しここで議論したほうが良いのではないかと感じる。ここはまだ固まってないので、もう一度くらいはここで議論をしてから持ち帰ったほうが良い気がするがどうか。ここでもう少し議論して、形を作って持ち帰ってもらって、その辺の議論をしてもらったほうが良い気がするのだが、どうだろうか。

○小寺書記

承知した。

○牛尾委員長

4はもう少しこの中で議論して、形を作ってから持ち帰ってもらって会派で議論してもらおうということに決めさせてほしい。2、3は持ち帰ってしっかり議論してもらおう。

○小寺書記

では持ち帰りは2と3、次の議題は2と3と4という形で、4はもう少し当委員会内でもむということでもよろしいか。

○牛尾委員長

はい。

○三浦委員

議会図書室については、もうやらないのか。

○牛尾委員長

議会図書室も一応上げておく。

○下間局長

今ある資料で十分足りているという認識で良いか。何か必要なものがあるか。

○牛尾委員長

次回は今ある資料で良いのではないか。よろしいか。

○三浦委員

次回はまた議論を進めるのか。

○牛尾委員長

当然持ち帰ってもらって会派で議論した意見も含めて議論したいと思うので、よろしく願います。以上で漏れはないか。よろしいか。

(「はい」という声あり)

では、本日の会議は以上で終了する。

[11 時 38 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会改革推進特別委員会委員長 牛 尾 昭